



30

20

0

8

10/10

7

6

5

1

4

3

2

5

1

1

5

昌黎先生集卷之三  
五言古詩二十一首

卷之三



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

# 南豫新報號外

明治三十一年三月十三日

(明治三十年四月廿八日遞信省認可)

## ●偽特使の來着●

盧擣捏造の毒筆を揮ひ撰舉區民を欺瞞して自由黨が萬一の勝算を僥倖せしめんとする宇和島新聞は昨日來偽特使來字の號外を發行して人心の動搖を企くとを期し本日の號外にて山下龜三郎なる者を横濱より迎へ來り兒島辭退の特使など大法螺を吹き飛せり今山下龜三郎遙々當地に來りたるは自由黨が最後の究策とて計畫したる魂膽として其魂膽の筋合を發さ出すハ余り氣の毒れ至りなれども斯る瞞着手段を以て撰舉權の神聖を汚濁せんとする我々第六區民は黙止するを得ざるを以て之ヲ事實を抽發しく其妄を辨す

山下龜三郎なるものハ元來今西林三郎といふ機商業者馬合にして山師的運動の相撲打ちなれど此度の競争にも幸ひ山龜が東京近邊に居るを以て此山龜を兒島君の偽特使に仕立て上り盧擣電報を往復して勿体らしく歓迎甘く進歩派の運動の氣勢を挫かんとする拙策あり昨日山龜が吉田町より歸着したる際の如きは自由黨支部の部將たる赤松の甲ヤン態々之を漁船に迎へ有無も云ひさせ我支部より速き歸り瞞着方法で打合せとなれ偽特使運動の手初めとして山龜を辻籠に昇り乗せ其郷里喜佐方に向はじめ同村の有様者を胡魔化さんとしたるも山龜が親父のハ正直一轍れ人されば偽特使の化けの皮と觀破され不義不道の舉動を慘々と譴責せられ勿体を粗末に乗り來りたる辻籠を引き上りらるゝ日暮過ぎ跣足のまゝ濡風となりて吉田支部へ逃げ歸りたる不体載は見るも中々氣の毒なりしが鐵面皮なる山龜は尙懲ともなく今朝三間地方をさして偽特使に乗り込み今林の運動を應援する目的を以て種々の交渉を試みる趣なれば同地方の選舉民諸氏に於て此の兒戲的偽特使に一杯を喰はざるゝなれど

發行兼編輯人 阪本 幸八 印刷人 野間 教治郎  
發行所 愛媛縣宇和島町 合資 本町百十八番戸 會社 南豫新報社

# 南豫新報第一號外

明治三十二年三月十四日  
(明治三十年四月廿八日遞信省認可)

## ●自由派

### 今西の候補を取消す

自由黨の候補者今西林三郎氏<sup>タケシ・ミツヲ</sup>が紛々もなき進歩主義の人あるとの隙ねて本紙の屢々を報道せし如くなるが迂闊ある自由黨は容易に之を信せず尙ほ様々の辯解をあすとの笑止さよ本紙と己むなく大隈伯の電報を公けにせし處流石の自由黨員も茲に至ては大に疑惑の念を起し種々取調の末愈よ今西の進歩主義者あるとを憚めたるより拘部彦次郎坂義三山村豊次郎等親族派以外の面々へ大に激昂し斯くてこそ我黨は全く最初今林を照會したる幹一郎、祐常等の兄弟の爲め國にられたるも同然なりと未派の面々迄も共々に憤激し爲めに多數の脱黨者をも出さん形勢とありしかば這是捨て置く難き一大事なりと早速會議を開きて今西氏に迫り此際勵然「自由黨に入りて誠心誠意同黨の爲めに尽すへしとの宣言書を發せよとて最も同黨の爲め私益なる文句を羅列し一篇の案文を草して要求する所もありしが今西氏ハ元來自由黨には斷して入黨せず單に同黨と提携す」との條件にて候補を承諾したるものこれは今に至つて此の如き宣言書を發する能はず若し強て之を要求せば斷然候補と辭退するの外なしとて頑として之に應せず此に於てか自由派の面々は大に案より相違し再び其辞句を修正して全く最初の精神とは異なりたる軟弱極る文案を造り特に昨十三日之宮の下迄今西氏を追つ掛け行き種々談判に及ひたれど氏は到底宣言書を發布する能はずとて断々手とて別ね附け一かば自由黨の面々も此に至ては愈よ今西氏は進歩主義者たるとを確認し斯くては折角我黨が骨折つゝ同人を選出するも家鴨ダ鶏の卵を孚化すと同然勞して功なきのみならず弟一世間の者笑ひとあるとなれば假令今は反対派獨り舞臺となるも我黨の体面には代る難しとて昨夜來重なる面々處々密議を凝らせ末遂に斷然今西氏の候補と取消す事に決し本日午後を以て此旨今西氏より通牒したと云ふ此より至て兒島君萬歳と云ふべし右は最も確かな筋より聞込みたれば不敢号外として讀者に報す兒島君萬歳々々

發行兼編輯人 阪本 幸八 印刷人野間 教治郎

發行所 愛媛縣宇和島町 合資 本町百十八番戸 會社 南豫新報社

明治五年九月廿九日  
遞信省認可

●進歩派の苦心策

の苦心策

南豫新報が事實を顛倒陰蔽一塊、那區民を愚弄欺瞞せんとするハ今に始めぬ事柄にして吾人ハ兒島氏の特使山下龜二郎氏が斷然辭退すと決意を承け來宇一たる事を報道したる又對し僞特使なりとの辨解をもしう茶を獨さんと試みたるか其心事たる陋劣野鄙の極端にし自から欺きて人を誣ゆの甚敷きものありいて僞特使なるか眞正の特使なるか進歩派か山下氏の下字に付如何み周章狼狽し卑劣かる手段を行ひたると全時に進歩黨に戦意なく或る陰謀家が不正の策略を講じつゝあるの事實を報道し彼の奸策を摘發せん

を按一市川忠臣といふ味噌摺小僧に  
村松氏の書状を持たしめ吉田へ出張  
せしめて引止めんとしたるが之れと全時に  
赤松甲一郎氏も山下氏に面談の必要あり漁  
船に赴き遂に山下氏は赤松氏と共に上陸す  
るに至り 市川忠臣は使命を辱か  
しめ單に 村松氏の手紙を山下  
氏に渡したるのみにて滛々歸字したり此の  
村松氏の書翰なるを乃が如何に山下氏  
の歸字ふ對し進歩派が苦心せるか及び  
進歩黨の陰謀内情を洞見するに  
余りあれば全文を掲げて彼れの覗瞻を碎き  
撰舉區民を欺瞞し居るの事實を表  
白すべし

二仲本日八幡濱へ歸る人にも船中にて  
御渡一一致候筈にて書面相托候得共自然  
行違ひゆゝ難計更らに此書面差出し  
候

右は市川忠臣といふボーアが吉田迄持參し  
漁船にて山下氏に渡したる書面より南豫  
子よ以上の事實を以てするも尙 偽 特  
使なりと主張するか村松氏の書面を復讀  
熟考すれハ進歩派には眞實の競  
争を爲す意もく或る奸策を環らし  
おるを知るべく如何に山下氏の來字に付狼  
狽したるかを見るべし進歩派が兒島氏  
乃決意反ても尙ほ且つ競争を繼續  
するは運動費の後始末に窮する  
の餘り所謂やり損ずれば切腹ひする  
といふ地位に立つものにして命ハ惜し自腹  
を切るにも金はもし兒島氏に泣附  
くも元來氏より求めたるものよりらされ  
ハ承諾する氣遣もなき苦心經營の末種々乃  
奸策を弄じ其罪や惡むに余りあるも其情や  
又た少しき察すへきものなり  
尙ほ山下氏が齎したる兒島氏より清家信寫

外二氏に宛てたる親書、村松氏に渡し  
より受取を所持し居れり

編輯人 檜垣直太郎  
發行兼印刷人 乃口舎

て死んで追還に窮し苦心中東京にて松氏が使命を全ふせざるより更に山下氏  
が當選する辭退との決意を承け來宇するに至りたるものにて山下氏ハ  
去九日該使命を受くると全時に兒島氏宅より進歩派連中に宛て下字する旨を打電  
したり然るに南豫紙は本紙の號外にて特使下宇の旨を報せしに對し  
知更ふもきを以て無根拠事實ありとの  
辨解を試みたるも其實大承知にして  
恐慌騒擾一方ならず山下氏が來宇する  
前八番質或、吉田みて引止んとの苦肉策

前人輯述可見此

山下龜三郎殿  
村松恒一郎

20

A vertical ruler scale from 0 to 9 inches. The numbers are black and the tick marks are light gray. The word "JAPAN" is printed in red ink next to the 3-inch mark.

10

68

7  
6

5  
4

3

1

8



支



新編卷之大書